世界で行われている新たな教育方法とは？

　オランダ発祥のスヌーズレン教育というものが重複障害教育の中で注目されつつある。これは一般的にはリラクゼーションや、セラピーというものというイメージが強く、教育としての認識は薄いというのが現状である。具体的には、まず教室を薄暗くしたり雑音が入らないようにしたりと子どもが集中しやすい環境を整える。次に、目で分かる光刺激、耳で分かる音楽刺激、鼻で分かる嗅覚刺激、など多重感覚環境を教室内に設定する。(下写真参照)子どもは、リラックスしやすい安楽な姿勢で参加する。そばで教師が対象児に寄り添い見守るとともに、本人の気持ちに共感して必要に応じて声掛けやスキンシップを行うものである。

　この教育方法を見つけたとき私は授業で見たビデオで一部を見たと思った。教室を薄暗くはしていなかったけれど、キラキラの折り紙を目に近づける様子はあった。しかし、スヌーズレン教育はリラックスということも重要になっており、子どもも自然で楽な状態で受けることも必要な条件であると思う。そのリラックスしているという状態であるからこそ普段見たことのない表情であったり感情がみられるのだと考える。その様子に反応することで自然とコミュニケーションが取れるようになると思う。教育という概念から何か教えなければならない、何か獲得しなければならないという考えになってしまいそうであるが、重度・重複障害児にとって感情を引き出すということも教育につながり必要なことであると思った。

中が見えない袋（触って様々な感触を楽しむ）

お店で購入した鈴（つるして触って音を楽しむ）

自由に形が変わるループ（まわしてみると中のキラキラが見える）

○参考文献
1） 姉崎　弘（2012）重度・重複障害児の自立活動における「スヌーズレン教育」の意義について　三重大学教育学部研究紀要 第 63 巻 教育科学 297-299
○写真
2） https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/intro/snoezelen.html(社会福祉法人日本心身障害児協会島田療育センター/スヌーズレン活動の紹介)